

目次

はじめに	i
------------	---

第1章 資産運用の基礎知識

【本章のねらい】	1
----------------	---

1 経済と金融	2
----------------------	---

(1) 経済のメカニズム	2
--------------------	---

(2) 名目GDPと実質GDP	4
-----------------------	---

(3) 景気指標	4
----------------	---

(4) 物価指標	6
----------------	---

(5) 株価の変動要因	7
-------------------	---

(6) 債券価格の変動要因	9
---------------------	---

Column 1 日本の個人資産の特徴

～貯蓄から投資へ、そして、資産形成へ～	12
---------------------------	----

2 証券市場の仕組み	14
-------------------------	----

(1) 株式と債券	14
-----------------	----

(2) 発行市場と流通市場	14
---------------------	----

(3) 市場インデックス	17
--------------------	----

(4) 外国証券市場	17
------------------	----

Column 2 金融機能とセーフティネット	20
------------------------------	----

第2章 資産運用の基礎理論

【本章のねらい】	22
----------------	----

1 基本的な考え方	22
------------------------	----

(1) 割引現在価値	22
------------------	----

(2) リターンとリスク	25
--------------------	----

(3) 金利の期間構造とイールドカーブ	26
---------------------------	----

(4) 金利の期間構造の代表的な理論	30
--------------------------	----

Column 3 日本銀行の長短金利操作

(イールドカーブ・コントロール)	31
(5) 分散投資	31
(6) ポートフォリオのリスク	32
(7) ポートフォリオ効果	36
2 現代ポートフォリオ理論 (Modern Portfolio Theory)	39
(1) 無差別曲線と投資家の選好類型	39
(2) 効率的フロンティア	40
(3) 分離定理	43
(4) 資本資産評価モデル (CAPM)	43
(5) 市場リスクと固有リスク	45
(6) CAPMに対する批判	47
3 ポートフォリオのパフォーマンス評価指標	49
(1) シャープ・レシオ	49
(2) トレイナー・レシオ (トレイナー測度)	50
(3) インフォメーション・レシオ	50
(4) ジェンセンのアルファ (α)	51
4 市場の効率性	55
(1) 効率的市場仮説と3フォーム	55
(2) ランダム・ウォーク理論	56
(3) 行動ファイナンスとアノマリー	56

第3章 資産運用の実際

【本章のねらい】	58
1 投資政策書と運用	58
(1) 資産とファミリーミッション	58
(2) 投資政策書と運用	59
(3) 顧客のファイナンシャルゴール	60
2 運用手法	63
(1) 資産クラスとアセット・ミックス	63

(2) アセット・アロケーション	64
(3) アセット・アロケーションのプロセス	67
(参考) 戦略的アセット・アロケーション	67
(4) インデックス運用とアクティブ運用	68
(5) クォンツ運用	71
(6) レバレッジ運用	71
3 運用方法の選択	73
(1) 顧客への運用アドバイス	73
(2) 投資信託の分類	77
(3) 投資信託のコスト	86
(4) 投資信託の取引	89
(5) 投資信託の分配金	90

第4章 資産運用の管理と情報収集

【本章のねらい】	93
1 運用管理の基礎知識	93
(1) 投資政策書と運用モニタリング	93
(2) 定量評価と定性評価	96
2 情報収集	99
(1) アセット・アロケーションの情報収集	99
(2) 投資信託からの情報収集	101
(3) 投資政策書と情報収集	105

第5章 株式

【本章のねらい】	106
1 株式を保有することの意味	107
(1) 株主の権利	107
(2) 非上場企業オーナーにとっての株式	108
(3) 上場企業経営者にとっての株価	109
(4) M&A	114

2 株式の評価尺度	119
(1) 株価と利益	119
(2) 株価の評価	119
(3) 株式の評価（理論株価の考え方）	122
(4) M&Aでの株式の評価	125
(5) 投資判断の方法	127
Column 4 分解することの意味	130

第6章 債券

【本章のねらい】	133
----------------	-----

1 債券の基本的な構造と利回り	134
(1) 割引債	134
(2) 利付債	134
(3) 応募者利回り	135
(4) 直接利回り、最終利回り、所有期間利回り	136
(5) 実効利回り	137
2 債券投資のリスク	139
(1) 債券投資のリスク	139
(2) デュレーション	141
(3) コンベクシティ	141
(4) 信用格付	142
3 債券の種類	143
(1) ワラント債（新株予約権付社債）	143
(2) CB（転換社債型新株予約権付社債）	143
(3) パリティ	143
(4) ハイイールド債	143
(5) コーラブル債（期限前償還条項付債券）	144
(6) 仕組債	144
Column 5 金利は現在と将来の架け橋？	145

第7章 外国証券投資

【本章のねらい】	147
1 為替	147
(1) 為替レートの決定理論	147
(2) 購買力平価説	148
(3) アセット・アプローチ	148
(4) TTSとTTB	149
(5) 外貨預金の利回り計算	149
(6) 為替ヘッジ	150
(7) 先物為替レートと直物為替レート	150
(8) FX（外国為替証拠金）取引	151
2 外国証券投資	152
(1) 外国証券のリスク・リターン特性	152
(2) 国際分散投資	152
(3) 投資機会の拡大	153

第8章 デリバティブ

【本章のねらい】	155
1 デリバティブとは	155
(1) デリバティブと原資産	155
(2) デリバティブの特徴	156
(3) 先物取引	157
(4) スワップ取引	157
(5) オプション取引	158
(6) ヨーロピアン・オプションとアメリカン・オプション	159
2 デリバティブの仕組み	161
(1) プレミアムの価格決定要因	161
(2) 本質的価値と時間的価値	161
(3) ストラドル	163
(4) ストラングル	164

3 デリバティブの種類	166
(1) 先物取引（フューチャー）と先渡取引（フォワード）	166
(2) バリア・オプション	166
(3) 金利オプション	166
(4) アービトラージ	167
Column 6 デリバティブ教授方法に悩む	168

第9章 オルタナティブ投資

【本章のねらい】	171
----------	-----

1 オルタナティブ投資	171
(1) 伝統的資産とオルタナティブ投資	171
(2) オルタナティブ投資の特徴	172
(3) オルタナティブ投資のメリット・デメリット	173
2 オルタナティブ投資の種類	174
(1) 不動産	174
(2) コモディティ	174
(3) ヘッジファンド	175
(4) プライベートエクイティ	175
(5) 証券化商品	176
(6) インフラ投資	176
(7) 保険商品投資	177
Column 7 オルタナティブ投資をどうとらえるか？	177

索引	179
----	-----